

新規恒久施設の施設運営計画 (検討状況)

目 次

1	これまでの検討経過	・ ・ ・ ・ ・ P. 1
2	3つの視点	・ ・ ・ ・ ・ P. 2
3	面的なレガシーの創出に向けて	・ ・ ・ ・ ・ P. 3
4	交通利便性の向上	・ ・ ・ ・ ・ P. 8
5	環境への配慮	・ ・ ・ ・ ・ P. 9
6	施設のバリアフリー	・ ・ ・ ・ ・ P. 10
7	施設別運営計画	
	（1）オリンピックアクアティクスセンター	・ ・ ・ ・ ・ P. 12
	（2）海の森水上競技場	・ ・ ・ ・ ・ P. 24
	（3）有明アリーナ	・ ・ ・ ・ ・ P. 36
	（4）カヌー・スラローム会場	・ ・ ・ ・ ・ P. 47
	（5）大井ホッケー競技場	・ ・ ・ ・ ・ P. 59
	（6）アーチェリー会場（夢の島公園）	・ ・ ・ ・ ・ P. 70
8	今後のスケジュール	・ ・ ・ ・ ・ P. 82

1 これまでの検討経過

【後利用の方向性】

- 平成26年12月～平成27年1月
第1回～第3回「アドバイザリー会議」開催
- 平成27年6月
「アドバイザリー会議のまとめ」「新規恒久施設に係る後利用の方向性」公表

【施設運営計画】

- 平成27年10月～
施設運営計画策定支援事業者決定、施設運営計画策定検討会を開催
- 平成28年3月
第4回「アドバイザリー会議」開催
- 平成28年5月
施設運営計画（中間のまとめ）公表、パブリックコメント募集
- 平成28年9月～12月
都政改革本部オリンピック・パラリンピック調査チームと連携した検討
- 平成29年3月
第5回「アドバイザリー会議」開催

2 3つの視点

(1) 点（施設）から面（地域）へ

競技施設周辺の様々な施設と連携し、面的に広がりのあるレガシーの形成を目指します

(2) コストから将来への投資へ

東京2020大会後も多くの人に利用される施設とし、価値あるレガシーを創出して施設整備のコストを将来のための投資に高めていきます

(3) 官から民へ

民間の活力やノウハウを最大限生かし、効率的・効果的な施設運営を行っていきます

3 面的なレガシーの創出に向けて

- 新規恒久施設は、東京の臨海部に新たな一大スポーツ拠点を形成し、都民、国民が多様なスポーツを楽しめる場を提供していきます
- また、新規恒久施設に隣接する公園やスポーツ施設、商業施設などとの連携を進め、面的に広がりのあるレガシーの創出を図ります
- このため、今後、「都市づくりのグランドデザイン（仮称）」の検討も踏まえ、地域のまちづくりとの連携を進めていきます

（参考）

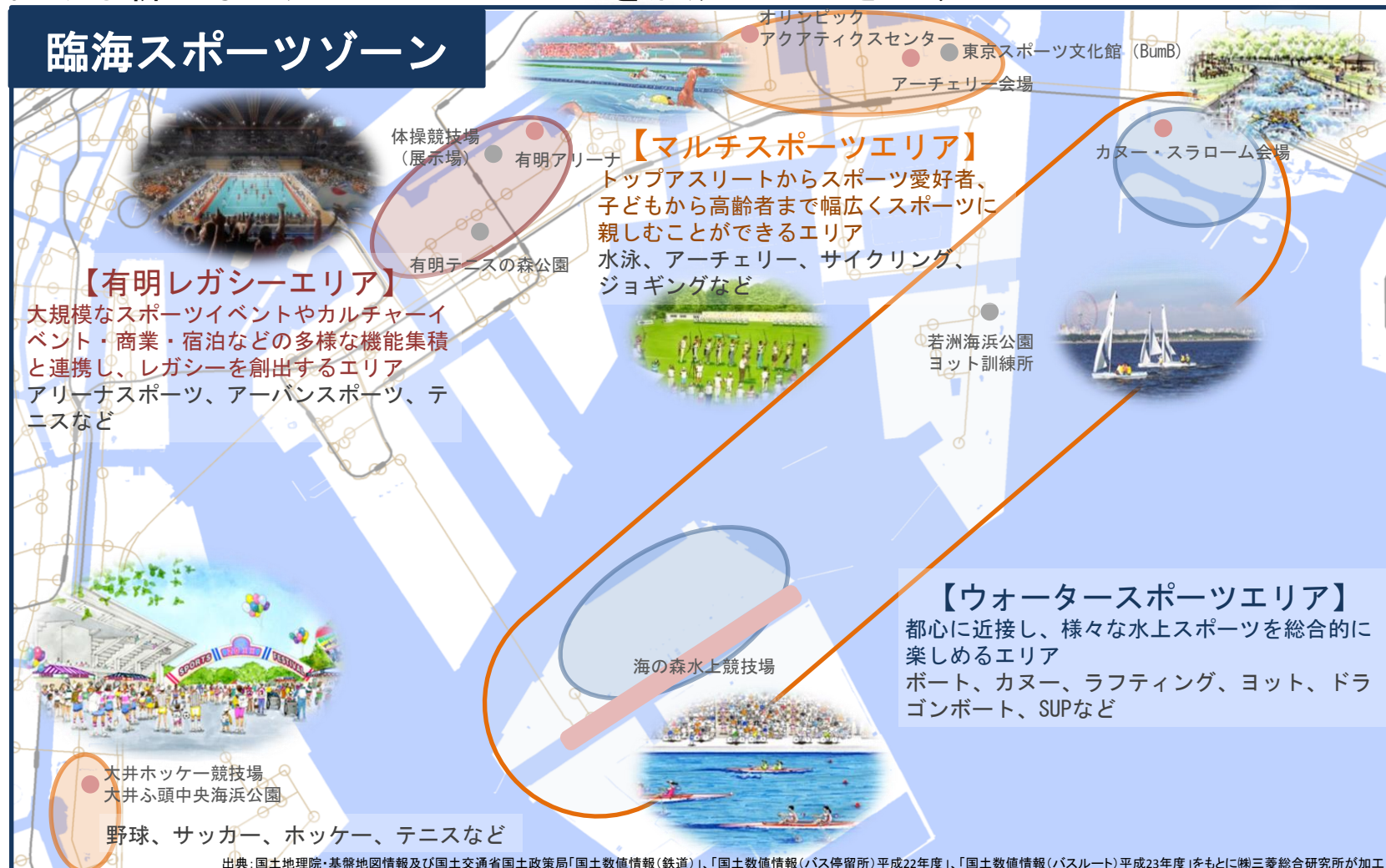
2040年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について 答申（抜粋）
（都市計画審議会答申 平成28年9月）

（競技施設整備と周辺のまちづくりとの連携）

- 競技施設に隣接する公園をはじめとした地域資源との連携や、周辺のまちづくりとの連携を進め、面的に広がりのあるレガシーを形成していくべきである。
- 臨海部への定常的なにぎわい機能の導入や競技施設の利便性の向上に資する道路・BRT・鉄道・舟運ネットワークの充実などにより、水の都・東京を再生すべきである。

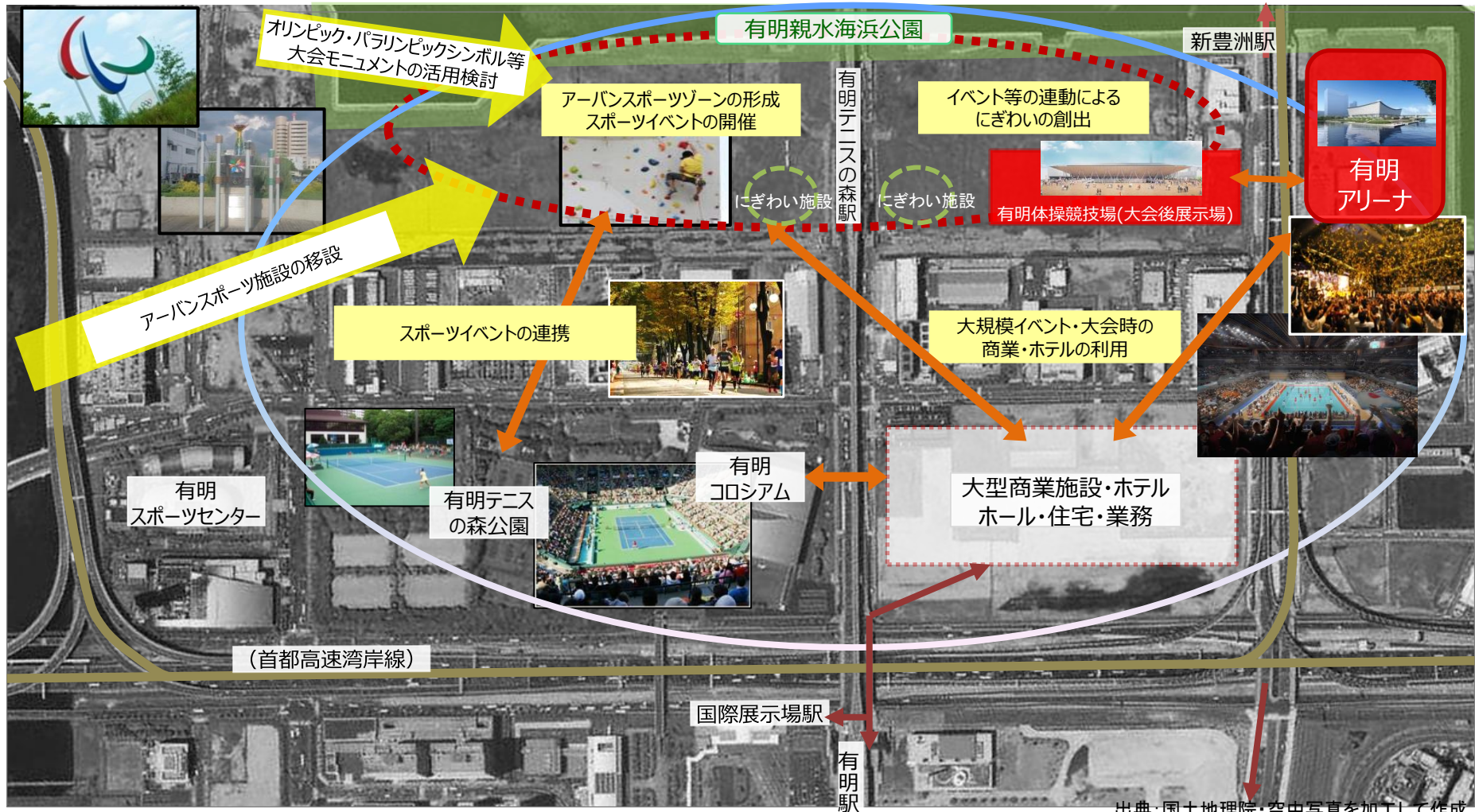
臨海スポーツゾーン

- 東京の新たなスポーツ・文化の拠点となる「有明レガシーエリア」、多様なスポーツを楽しめる「マルチスポーツエリア」、様々な水上スポーツ体験の機会を提供する「ウォータースポーツエリア」、そして大井ホッケー競技場周辺のスポーツ施設が一体となり、臨海部における新たな一大スポーツゾーンを形成していきます



有明／有明レガシーエリア（ARIAKE LEGACY AREA）

- 大会シンボルや仮設スポーツ施設の移設、スポーツカフェ・ショップ等の設置により、アーバンスポーツゾーンを形成します
- エリア内に位置する大会関連施設でのイベント開催や、民間開発による商業施設、ホテル、ホールなどの機能集積による相乗効果により、新たな魅力を生み出すエリアを形成します



辰巳・夢の島／マルチスポーツエリア

- 様々なスポーツ施設、隣接する公園等が連携し、相互利用の促進や大規模大会、イベントの開催など、多様なスポーツ活動の拠点として広がりのあるレガシーを形成します
- 夢の島公園と辰巳の森海浜公園との散策路やサイクリングコース等を通じた連続性を確保します
- 水辺空間を生かし、新たなレクリエーション空間を創出します



海の森・若洲・葛西／ウォータースポーツエリア

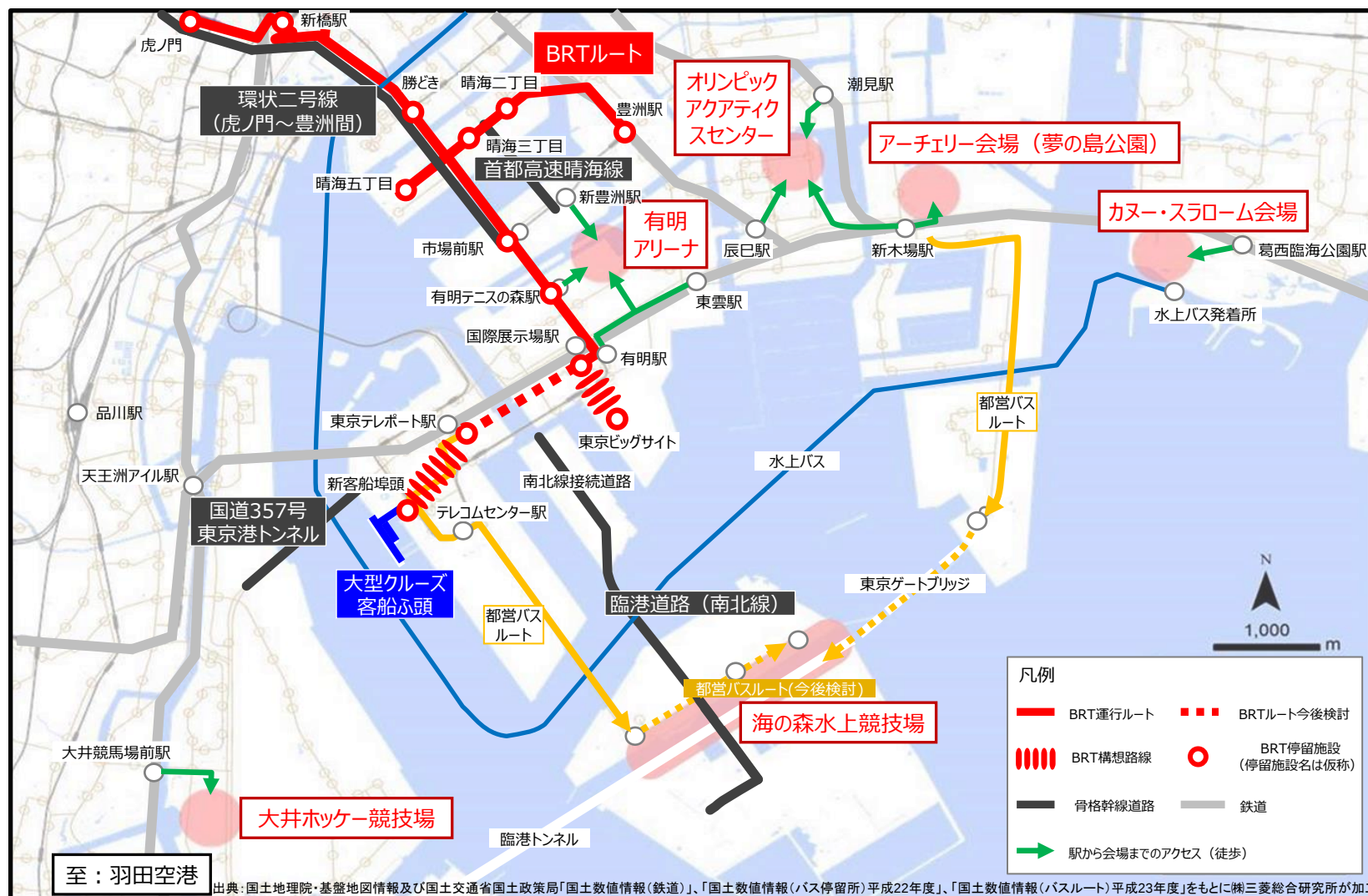
- 臨海部に海の森水上競技場、カヌー・スラローム会場が整備され、若洲海浜公園ヨット訓練所とともにウォータースポーツエリアを形成します
- 都心に近接し、ボート、カヌー、ラフティング、ヨットなど様々な水上スポーツを総合的に楽しめるエリアが誕生します



出典：国土地理院・空中写真を加工して作成

4 交通利便性の向上

- 骨格幹線道路の整備、BRTの導入など都心と臨海副都心を結ぶ交通ネットワークの充実を図り、臨海部へのアクセスを強化します。また、バス路線の拡充・シャトルバスの導入の検討など、新規恒久施設への交通利便性の向上に向けた取組を進めていきます

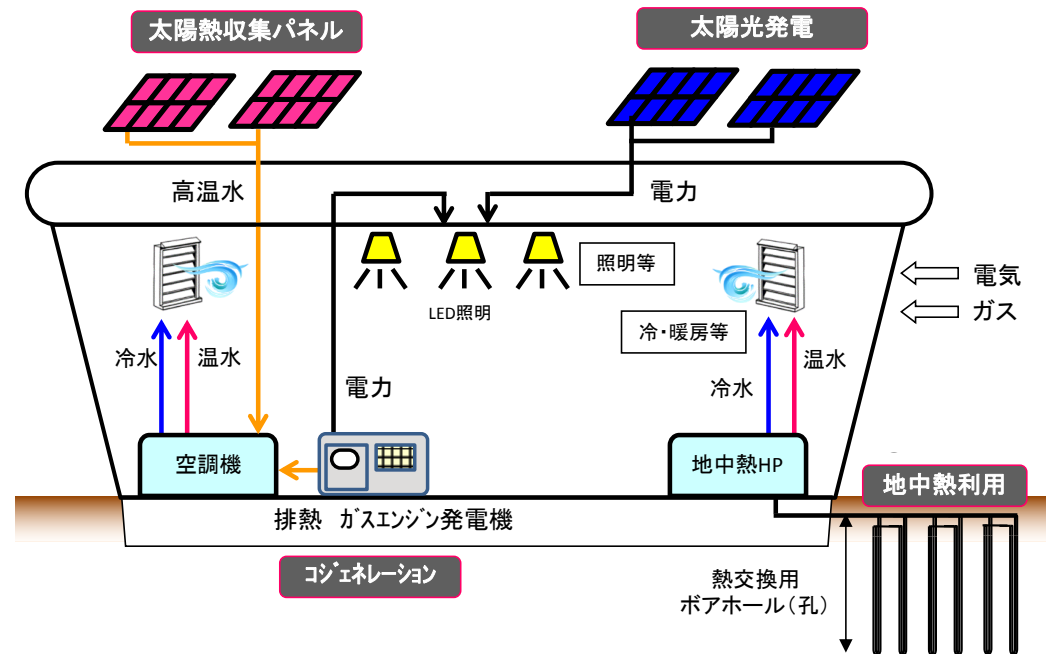


5 環境への配慮

- 再生可能エネルギーの導入、省エネルギー技術の導入を検討するなど、環境に最大限配慮した施設としていきます

【取組例】

- 地中熱利用ヒートポンプ
- 太陽熱収集パネル
- 太陽光発電設備
- コージェネレーション
- 遮熱性舗装
- 植栽



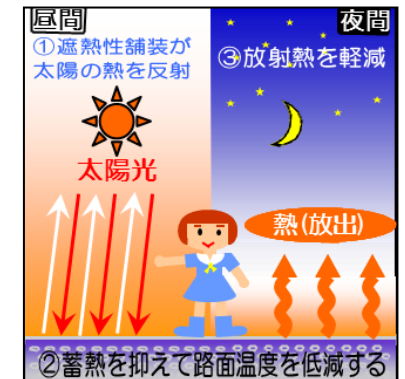
太陽光発電パネルの例



屋上緑化の例



遮熱性舗装のイメージ



6 施設のバリアフリー

- 新規恒久施設は、障害の有無にかかわらず全ての人にとって利用しやすい施設としていきます
- 大会後の活用にあたっては、大会や練習、体験の場を提供するなど、障害者スポーツの普及促進に努めていきます

○ Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン

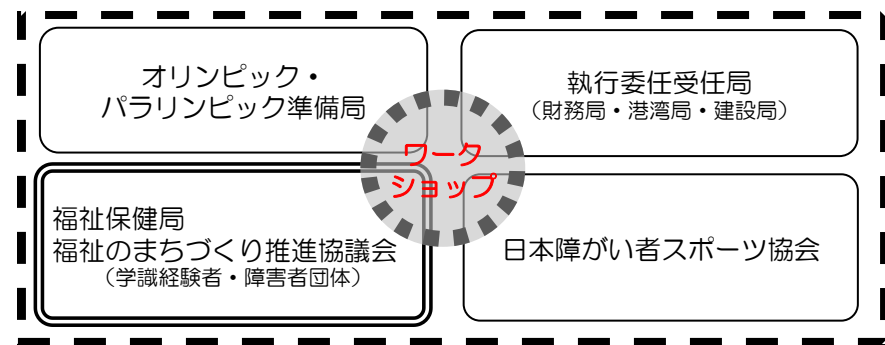
- 東京2020大会が、障害の有無に関わらず、全ての人にとって参加しやすい大会となるよう、ハード・ソフト両面でのバリアフリー化の推進に向け、組織委員会が策定する大会用ガイドライン
- 新規恒久施設は、最も厳しい基準である推奨基準を可能な限り適用していく

(推奨基準の具体例)

- 会場・公共交通施設の出入口のドア幅：950mm
- 会場・公共交通の通路幅：2,000mm以上(不特定多数の歩行者が極めて多い通路)
- 会場・ルートのエレベーターのかごの大きさ
：幅2,100mm×奥行1,500mm又は同等水準のサイズ

○ アクセシビリティ・ワークショップ

- 新規恒久施設については、ガイドラインを適切に反映することに加え、より障害者の目線に立った施設となるよう、具体的な意見を聴取
- 「東京都福祉のまちづくり推進協議会」の学識経験者及び障害者団体や日本障がい者スポーツ協会が参画



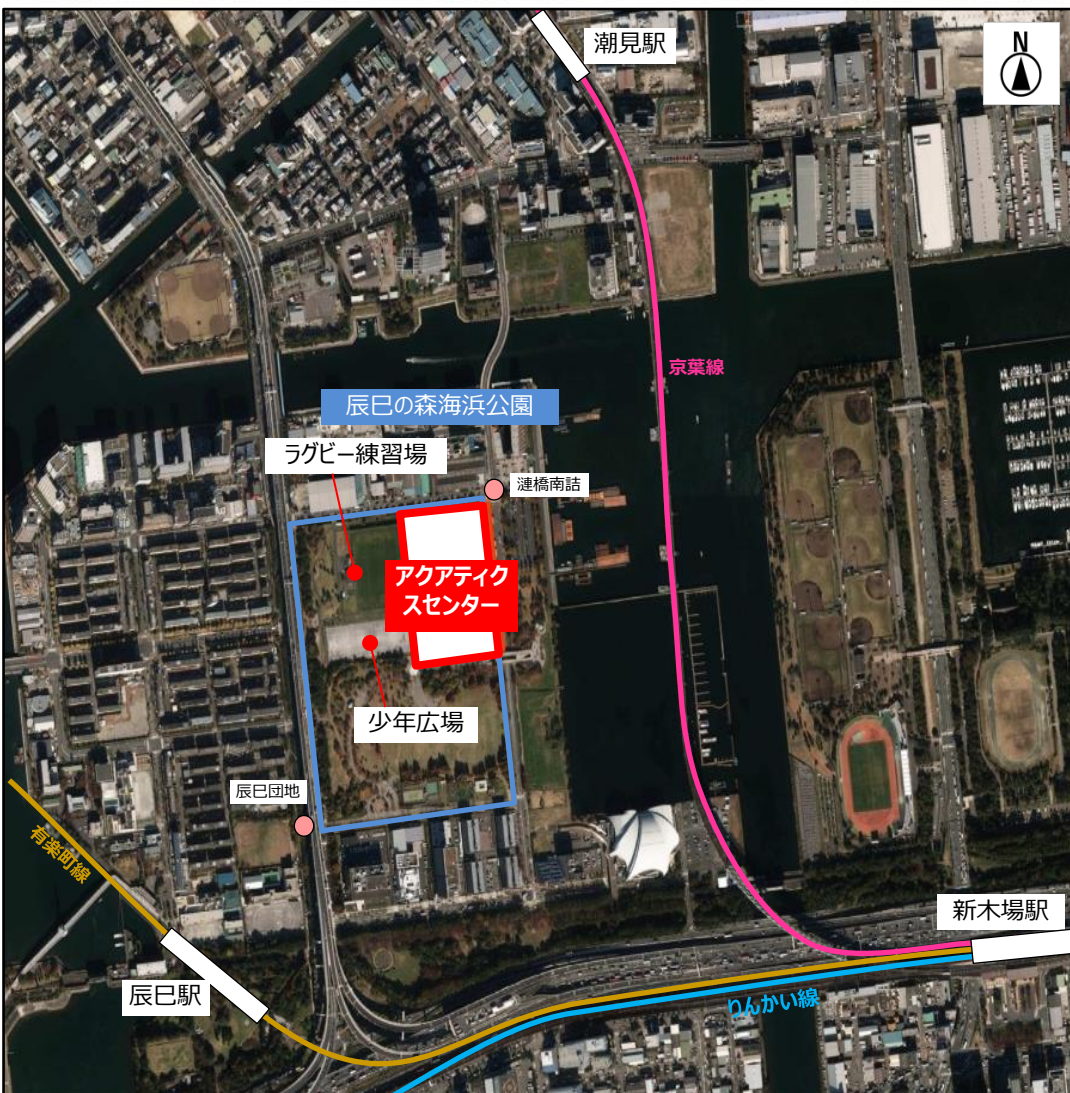
誰もが利用しやすい施設へ



7 施設別運営計画

7 (1) オリンピックアクアティクスセンター

① 建設予定地の概要

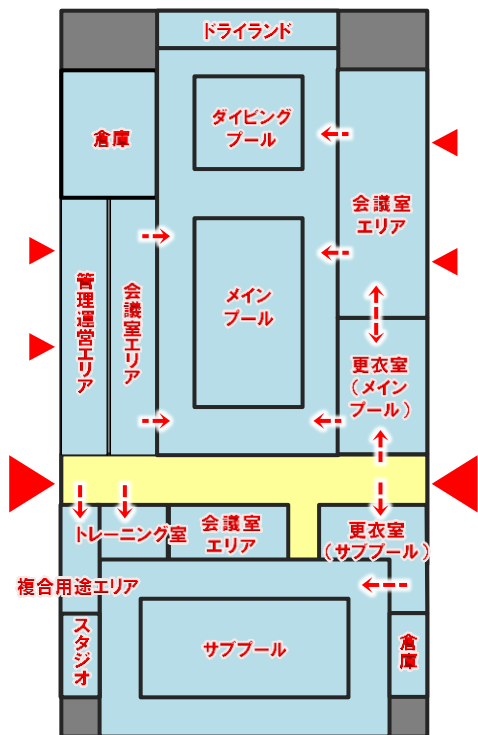


東京2020大会における実施競技	オリンピック	水泳(競泳、飛込、シンクロナイズドスイミング)
	パラリンピック	水泳
立地条件	所在地	江東区辰巳二丁目2番
	周辺土地利用	○ 運河に囲まれたウォーターフロント地区にあり辰巳の森海浜公園内に整備予定(建築予定地は現在は未開園地) ○ 首都高速をはさんで西に都営辰巳一丁目団地が立地し、南に物流施設ゾーンが立地 ○ 敷地に近接して東京辰巳国際水泳場(1993年竣工)がある
	交通アクセス	○ 東京メトロ有楽町線「辰巳」駅下車徒歩約10分 ○ JR京葉線「潮見」駅下車徒歩約15分 ○ JR京葉線・東京メトロ有楽町線・東京臨海高速鉄道りんかい線「新木場」駅下車徒歩約20分 ○ 都営バス「辰巳団地」下車徒歩約5分 ○ 江東区コミュニティバス「湊橋南詰」下車徒歩約5分
所有の状況		○ 土地は所有・管理とも東京都

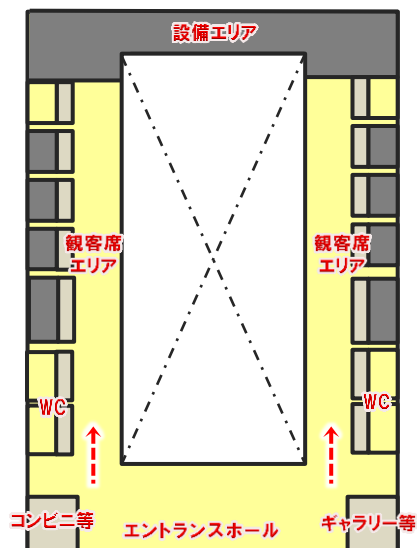
② 施設内容

建築物概要

階数	地上4階、地下1階
構造	鉄骨造 一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造
延床面積	約61,400㎡



1階



2階

施設の概要

メインプール

プール	50m×25m、10レーン
観客席等	5,000席 車椅子使用者席（同伴者席併設）を約1%確保
その他	可動床は、水深3m～0m 可動壁（短水路2面利用可能）

サブプール

プール	50m×25m、8レーン
その他	可動床は、水深3m～0m 可動壁（短水路2面利用可能）

ダイビングプール

プール	25m×25m×5m
その他	隣接してドライランドを設置

その他

更衣室（家族更衣室を含む。）
多目的トイレ
トレーニング室、スタジオ、会議室
店舗スペース等

※施設内容については、大会運営におけるバリアフリー化の指針である「アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえ整備していきます。

※この内容は現段階のものであり、今後変更する場合があります。

③ レガシー

I 主なレガシー

日本水泳の中心となる世界最高水準の水泳場

- 選手たちの競い合いを通じて、世界を目指すアスリートを育成
- オリンピック・パラリンピックや国際大会を契機に、水泳の裾野拡大と次世代のアスリート候補を育成

II 後利用の視点

○ アスリートファースト

- ・ 日本・東京のアスリートの晴れの舞台とし、競技力の向上を図っていきます
目標：年間100大会開催 { 国際・国内大会
ジュニア大会等



○ 都民ファースト

- ・ 都民のための水泳場という機能も併せ持つ施設とし、子供から高齢者まで、スポーツや健康増進に取り組むことができる場としていきます



④ 国内外の競技大会の開催

○ 競泳等の競技大会を年間１００大会開催し、アスリートに競い合いの場を提供して競技力の向上を図ります



➤ 国際・国内競技大会

国際大会		競泳ワールドカップ、アジア水泳選手権、ダイビングワールドカップ、シンクロワールドトロフィー ワールドパラスイミングワールドシリーズ など
国内大会	競泳	日本選手権、JAPAN OPEN、日本マスタース水泳 ジャパンパラ水泳競技大会 など
	シンクロ	日本シンクロチャレンジカップ、 シンクロ・ナショナルトライアル など
	飛込み	日本選手権飛込競技大会 など
	水球	日本選手権水球競技大会 など

➤ 都大会

東京都(春季/夏季)水泳競技大会、東京都選手権水泳競技大会 など

➤ 各種選考会

飛込国際大会派遣代表選手選考会、国体東京都代表選手選考会 など

⑤ アスリートの強化、育成

○ オリンピック・パラリンピックやその後の国際大会を契機に、水泳のさらなる裾野拡大と次世代のアスリート候補を育成していきます



ジュニアアスリートの大会・選考会の場	・ 全国 J O C ジュニアオリンピックカップ水泳競技大会 ・ 13-15歳ソロ・デュエット大会シンクロナショナルトライアル ・ 東京都中学校選手権 ・ 東京都ジュニア選考会 など
次世代アスリート育成プログラムの提供	・ オリンピアン・パラリンピアンによる水泳教室 ・ 競技力向上飛込教室 ・ 東京都冬季強化合宿 など

⑥ 子供から高齢者まで、誰もがスポーツや健康増進に取り組むことができる場

○ サブプール、スタジオ等を有効活用し、子供水泳教室、エアロビクスなど、子供から高齢者まで、誰もがスポーツや健康増進に取り組むことができる場を提供します



サブプール、スタジオ、ジムにおける都民利用	- 個人利用 80,000人 - エアロビクス 1,000人 など - 子供水泳教室 5,000人
様々な健康増進プログラムの提供	- 子供体育スクール 4,000人 - ヨガ、ピラティス 5,000人 - 水中エアロビクス 6,000人 - 水中歩行 3,000人 など

⑦ 来場者目標

○ 競技での利用や都民の個人利用などにより、年間１００万人を目標とします

利用目的	内容	来場者目標数	
大会利用	年間約100の大会・選考会 国際大会 約1大会 国内・全国レベル大会 約15大会 都大会レベル 50大会 その他 約32大会	21万人	85.2万人
観戦者等	年間大会開催日数 140日 1大会平均 2,700人	38万人	
大会以外の競技利用	レーン貸し	23万人	
競技力向上事業	子供水泳教室、スタート・ターン講座 水中映像フォームチェック など	3.2万人	
個人利用	プールとトレーニングルームを時間単位で利用可能な 柔軟な料金設定	4.7万人	15.1万人
プールを活用した健康増進事業	シルバー水泳、水中エアロビクス、水中歩行 など	1.9万人	
ジムやスタジオ、諸室を活用した 健康増進事業	ヨガ、子供体育スクール、太極拳、ダンススクール など	3.8万人	
諸室を活用した文化・教養事業	スポーツ栄養学講座、ボランティア養成講座、栄養相談 など	1.3万人	
レクリエーション事業	全館を活用したイベント、水上アスレチック広場 など	3.4万人	

※1万人未満または千人未満を四捨五入しており、合計等が一致しない場合があります。

⑧ 年間利用計画

○大会開催時には、メインプール、サブプール、ダイビングプールを競技利用とするとともに、通常時には、サブプール、スタジオ等を中心に一般利用でも活用していきます

場所	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
メインプール	大会開催時	国際・国内大会、都大会等を開催											
	通常時	個人利用、専用利用（レーン貸）、ジュニア選手育成コース、スタートターン講座等											
サブプール	大会開催時	国際・国内大会、都大会等を開催											
		個人利用、専用利用（レーン貸）											
	通常時	早朝個人利用 早朝専用利用(レーン貸・予約制) 個人利用、専用利用（レーン貸）、子供水泳教室、水中歩行、水中エアロビクス、水上アスレチック広場 等											
ダイビングプール	大会開催時	国際・国内大会、都大会等を開催											
	通常時	個人利用（認定を受けた利用者）専用利用（飛込み、シンクロ等）											
スタジオ トレーニングルーム等		ヨガ、エアロビクス、健康増進講座（プール併用）等／スタジオの空き時間は専用利用に貸出											
		大会運営室として利用											

	・・・競技利用
	・・・一般利用

⑨ 周辺施設等との連携

○ 辰巳の森海浜公園と一体となったにぎわいを創出し、都民の憩いの場としていきます

施設及び公園の相互利用促進

- 周辺公園内にランニングコースを設定
ランニングコース・ニュースポーツの案内も表示
- ニュースポーツやランナー等公園利用者による施設内更衣室・シャワー室の利用

利用しやすいための改善

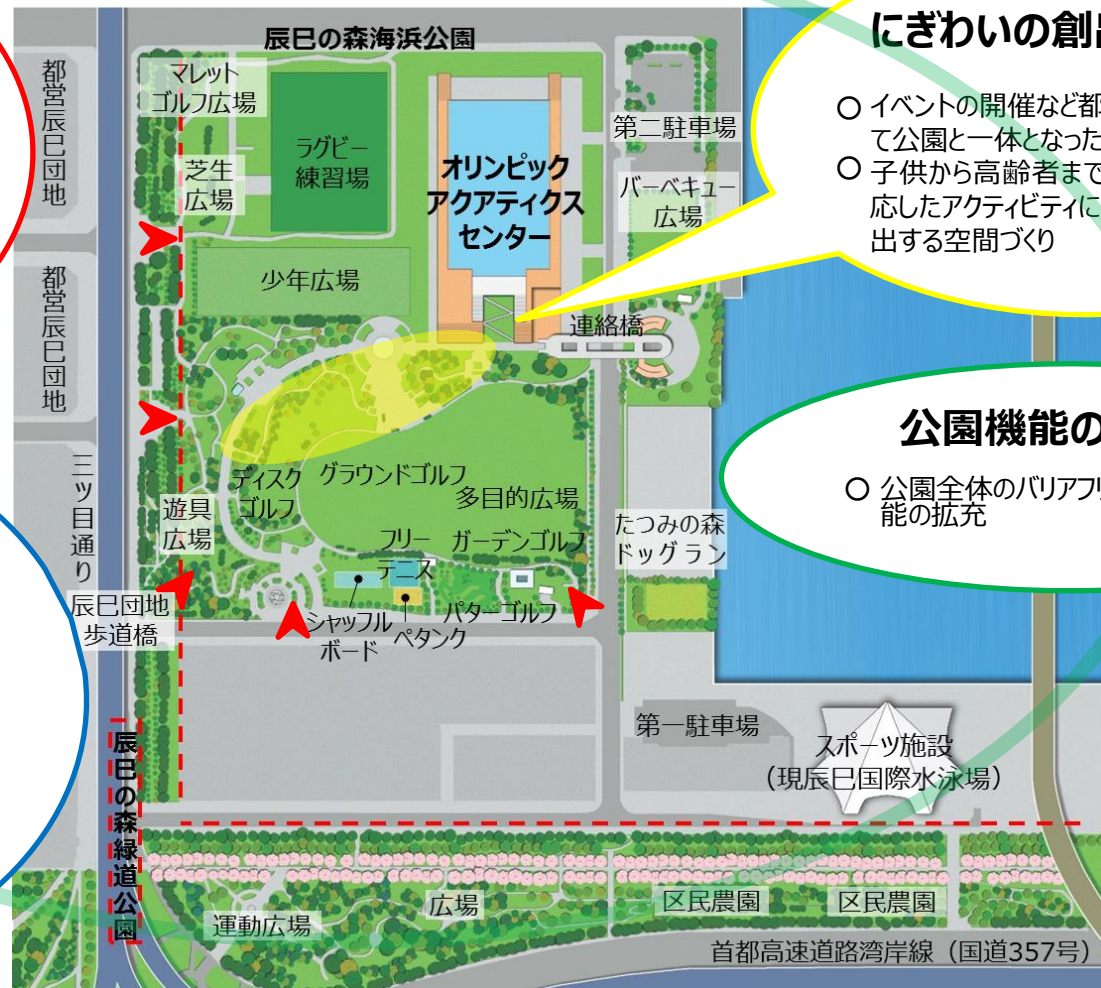
- 園路灯の改善
夜間でも安心して利用できる環境づくり
- 案内サインの表示
最寄駅からのルートに施設までの案内を表示
- エントランス空間の創出
駅からの歩行者動線を意識したエントランス空間の創出

にぎわいの創出

- イベントの開催など都民の憩いの場として公園と一体となった、にぎわいを創出
- 子供から高齢者まで多様な世代に対応したアクティビティにより、にぎわいを創出する空間づくり

公園機能の拡充

- 公園全体のバリアフリー機能、防災機能の拡充



※ 東京辰巳国際水泳場については、オリンピックアクアティクスセンターとは異なる機能を有するスポーツ施設としての活用を検討しています。

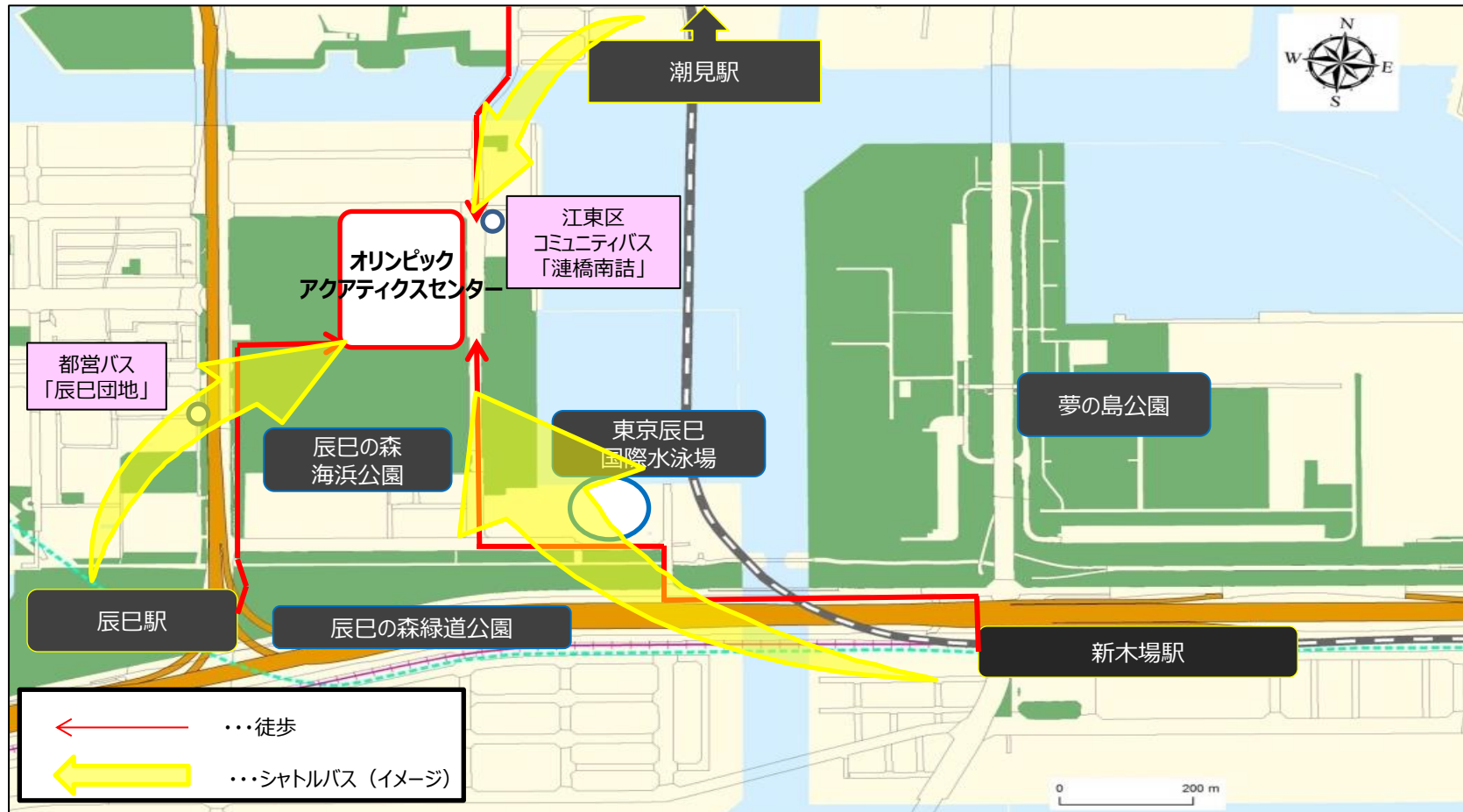
⑩ 交通アクセス

○ 電車・バスなど、様々なアクセスが可能です

- 東京メトロ有楽町線「辰巳」駅（東京駅から約18分、新宿駅から約22分）下車徒歩約10分
- JR京葉線「潮見」駅（東京駅から約7分、新宿駅から約30分）下車徒歩約15分
- JR京葉線・東京メトロ有楽町線・東京臨海高速鉄道りんかい線「新木場」駅（東京駅から約8分、新宿駅から約30分）下車徒歩約20分

- 都営バス「辰巳団地」、江東区コミュニティバス「漣橋南詰」下車徒歩約5分

※ シャトルバス：辰巳方面、潮見方面、新木場方面、豊洲・有明方面を通るルート进行検討



⑪ 管理運営

(1) 管理運営の検討

指定管理者制度等による管理運営について具体的な検討を進めていきます

(2) 収支見込（試算）

年間収支は約6.4億円のマイナスとなる見込みです

収入		
項目		金額(百万円)
施設利用料	個人利用	36
	専用利用	98
	レーン貸し	70
	早朝枠利用	3
	付帯設備使用料	20
	スタジオ	1
駐車場		31
その他収入		4
自主事業営業料		86
合計		349

支出		
項目		金額(百万円)
人件費		214
光熱水費		287
消耗品費		31
役務費		3
業務委託料	警備	47
	清掃	82
	設備維持保守	172
	その他	12
賃借料		25
その他		12
一般管理費		14
消費税		90
合計		989

収支 ▲638百万円

【今後の運営事業者選定の中で提案を募るなど収益向上策を検討】

①大会後にネーミングライツの導入

②企業広告の獲得

③空調の運用面での効率化による光熱水費の削減

④施設の稼働率向上による収入増

- ・利用者のニーズにあわせた、弾力的な料金体系（回数券、定期券など）

※現時点での試算であり、今後の精査等により、変動する場合があります。

※表示単位未満を四捨五入しており、合計等が一致しない場合があります。

7 (2) 海の森水上競技場

① 建設予定地の概要



東京2020大会における実施競技	オリンピック	ボート、カヌー(スプリント)
	パラリンピック	ボート、カヌー

立地条件	所在地	東京都江東区青海三丁目地先
	周辺土地利用	○隣接地において、「海の森公園(仮称)」が大会後に開園予定 ○物流施設や環境関連施設が立地
	交通アクセス	○ゆりかもめ「テレコムセンター」駅から都営バス「環境局中防合同庁舎前」下車徒歩約20分 ○東京臨海高速鉄道りんかい線「東京テレポート」駅から都営バス「環境局中防合同庁舎前」下車徒歩約20分 ○臨港道路青海縦貫線(江東区青海)、臨海トンネル(大田区城南島)、東京ゲートブリッジ(江東区若洲)、臨港道路南北線(江東区有明、整備中)から車でアクセス
	所有の状況	○土地は所有・管理とも東京都

② 施設内容

施設の概要

競技コース	2,000m×8レーン
グランドスタンド棟 (2階建て)	観客席 約2,000席(車椅子使用者席(同伴者席併設)を約1%確保) ラウンジ、会議室など
艇庫棟 (2階建て)	宿泊施設、艇庫、飲食施設、シャワー・更衣室、会議室など
その他	フィニッシュタワー(3階建て)、水門、ポンツーンなど 車椅子対応トイレ・シャワーの設置など



※施設内容については、大会運営におけるバリアフリー化の指針である「アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえ、整備していきます。

※この内容は現段階のものであり、今後変更する場合があります。

③ レガシー

I 主なレガシー

アジアの水上競技の中心となる国際水準の水上競技場

- アスリートの強化、育成
- 水上スポーツの裾野拡大

II 後利用の視点

○アスリートファースト

- ・ 最高峰の水上競技大会の会場として、アスリートの活躍の場となる国際大会、国内大会を積極的に誘致・開催していきます

目標：年間30大会開催

（国際大会
全日本選手権等）

○都民ファースト

- ・ 水上スポーツ体験、水上レジャーの機会の提供、都民参加イベントの実施など多様なスポーツに親しめる場としていきます



④ 国内外の水上競技大会の開催

- 国際基準の水上競技場として、ボート、カヌー（スプリント）、トライアスロンやドラゴンボートなど、様々な水上競技の国際大会、国内大会を誘致・開催し、アジアの水上競技の拠点としていきます

■ 国際大会 4 大会、国内大会 26 大会、計 30 大会開催



区分	国際大会	国内大会	開催目標
ボート	毎年1大会誘致を目標	全日本選手権など 14大会 うち都大会8大会	15大会
カヌー(スプリント)		日本選手権、日本パラカヌー選手権など 4大会	5大会
トライアスロン		シニア大会、パラ大会など 5大会	6大会
ドラゴンボート		東日本ドラゴンボート選手権大会など 2大会	3大会
SUP	—	ディスタンス・テクニカル 1大会	1大会

⑤ アスリートの強化、育成

- 広大で静穏な水面や艇庫・宿泊施設など、競技に適した環境を、トップアスリートからジュニア、障害者アスリートまで幅広く提供し、水上競技の競技力向上に寄与していきます

■ 強化・育成合宿の実施 実施目標 計51回



競技	内容	主催者	実施時期	実施目標
ボート	ナショナルチーム	日本ボート協会 日本パラローイング協会	10月～3月(月1回程度)	5回
	都立高校・私立高校	東京都ボート協会 東京都高体連	4月～9月(月1回)	16回
	都立高校・私立高校	東京都ボート協会 東京都高体連	11月～3月(月2回)	
カヌー (スプリント)	ナショナルチーム	日本カヌー連盟 日本障害者カヌー協会	4月～11月(月1～2回)	13回
	U23&ジュニア	日本カヌー連盟	4月～11月(月1～2回)	12回
ドラゴンボート	選抜チーム	日本ドラゴンボート協会	8月(月1回)・9月(月1回)	5回
	同好会チーム	東京都ドラゴンボート協会	7月(月1回)	
	大学クラブ	東京都ドラゴンボート協会	5月(月1回)・9月(月1回)	

⑥ 都民に水上スポーツ体験、水上レジャーの機会を提供

- 広大な水域を生かし、都民に様々な水上スポーツ、水上レジャーに親しむ機会を提供していきます

水上スポーツ体験 水上レジャー	・ボート教室、 障害者ボート教室 ・ジュニアカヌー教室、 障害者カヌー教室 ・ドラゴンボート都民向け 体験乗船会
多様なアウトドアスポーツ 等に親しめる機会を創出 等	・都民参加イベント等の 実施



〔内訳〕

競技	内容	実施時期(予定)	人数
ボート	ボート教室	通年(11回)	200人
カヌー (スプリント)	ジュニアカヌー教室	6月～11月(8回)	200人
ドラゴンボート	都民向け体験乗船会	4月(1回)、6月(1回) 8月(1回)、10月(1回)	400人
イベント等	都民参加イベント等	通年	36,000人

※千人未満または百人未満を四捨五入しています。

⑦ 来場者目標

○ 競技での利用や体験・レクリエーション利用などで、年間35万人を目標とします

利用目的	競技	内容	来場者目標数	
大会利用	ボート	国際大会1、国内大会14	209,000人	269,000人 選手等関係者 53,000人 観戦者数 216,000人
	カヌー(スプリント)	国際大会1、国内大会4	8,000人	
	トライアスロン	国際大会1、国内大会5	18,000人	
	ドラゴンボート	国際大会1、国内大会2	32,000人	
	SUP	国内大会1	2,000人	
練習利用	ボート	シニア、都立・私立高校の練習	22,000人	34,000人
	カヌー(スプリント)	各大学の練習	9,000人	
	ドラゴンボート	登録チーム、大学クラブの練習	3,000人	
	SUP	各チームの練習	300人	
合宿利用	ボート	日本代表強化合宿、高校合宿	3,000人	6,000人
	カヌー(スプリント)	日本代表強化合宿	2,000人	
	ドラゴンボート	選抜、同好会、大学チームの合宿	500人	
体験・その他	体験教室、コーチ・審判研修会など	ボート・カヌー教室、各NF研修会など	3,000人	
レクリエーション	イベント	都民参加イベント(ランニングイベント等)	36,000人	

※千人未満または百人未満を四捨五入しており、合計等が一致しない場合があります。

⑧ 年間利用計画

- 春から秋ごろまで、世界・全国レベルの様々な水上競技の大会を開催するほか、年間を通じて練習や合宿等を実施していきます
- 夏季を中心に水上スポーツ体験などのレクリエーションで活用するとともに、水域・陸域を活用した各種イベント等を実施するなど、一年を通して都民に親しまれる施設としていきます

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
競技コース	競技利用 ボート カヌー(スプリント) ドラゴンボート トライアスロン等	大会利用												
		練習利用・合宿など												
		コーチ・審判研修会など												
	レクリエーション 利用	水上スポーツ体験（ボート教室、ジュニアカヌー教室、ドラゴンボート体験乗船会など）												
施設	艇庫棟	飲食施設 宿泊施設等	競技者や公園利用者の利用											
	スタンド棟	ラウンジ 会議室等	大会利用											
			コーチ・審判研修会、一般利用											
その他	イベント等									都民参加イベント				
		ランニングなど												

・・・競技利用

・・・一般利用

⑨ 周辺施設等との連携

○ 隣接する「海の森公園（仮称）」と連携し、臨海部の新たな憩いの場を創出していきます

- 歩行者動線の連続性確保
- 会議室、宿泊施設などの一体的利用、駐車場等の相互利用
- 利用案内・情報提供の効率化、連続性のあるランニングコース・散策通路等



※この内容は現段階のものであり、今後変更する場合があります。

⑩ 交通アクセス

- アクセス道路（臨港道路南北線）の整備、バス路線拡充の検討、駐車場・バス乗降場の整備など、アクセス強化に取り組んでいきます



⑪ 管理運営

(1) 管理運営の検討

指定管理者制度等による管理運営について具体的な検討を進めていきます

(2) 収支見込（試算）

年間収支は約1.6億円のマイナスとなる見込みです

収入		
項目		金額(百万円)
施設 利用 料	大会利用	3
	艇庫利用	9
	貸出艇利用	9
	ロッカー・シャワー 利用料 等	17
宿泊料		49
会議室利用料		3
駐車場		15
イベント運営収入		6
自主事業営業料		2
合計		113

※現時点での試算であり、今後の精査等により、変動する場合があります。

※20年目以降の大規模修繕の投資判断は、運営収支、利用状況なども勘案した上で判断します。

※表示単位未満を四捨五入しており、合計等が一致しない場合があります。

支出		
項目		金額(百万円)
人件費		54
光熱水費		11
行催事費		14
業務 委 託 料	警備・救護	17
	植物管理	23
	清掃	37
	設備保守管理	17
	水門管理	50
その他		15
一般管理費		11
消費税		25
合計		271

収支 ▲158百万円

【 今後の運営事業者選定の中で提案を募るなど収益向上策を検討 】

①大会後にネーミングライツの導入、企業広告の獲得

②各種イベント等の開催

スポーツ（ランニング等）

音楽、フードイベント等の開催

③企業研修での活用

水上スポーツを取り入れた企業研修との連携（チームビルディング研修等）

④学校教育との連携

修学旅行や社会科見学などで施設見学や水上スポーツ体験を実施

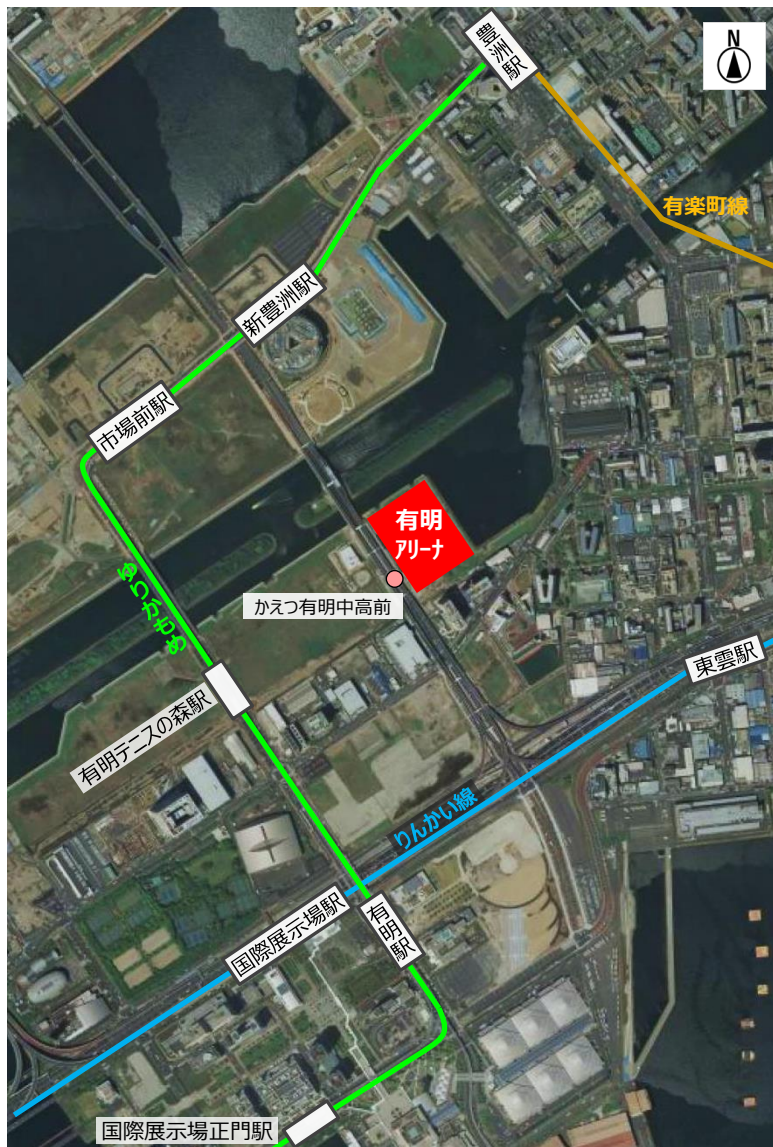
⑤公園との同一管理者による効率的な管理

維持管理費の削減（植栽・警備・清掃等）

相互利用の促進（駐車場・宿泊・飲食施設）

7 (3) 有明アリーナ

① 建設予定地の概要



東京2020大会における実施競技	オリンピック	バレーボール
	パラリンピック	車椅子バスケットボール

立地条件	所在地	江東区有明一丁目
	周辺土地利用	○海上公園予定地を介して北と東の2面で東雲運河に接する ○高層マンションが隣接し、100～300m程度の距離には小中学校や大学も立地 ○「旧防波堤」の緑と海への眺望を活用したうるおい豊かな居住機能の配置を基本としながら、公園や公共公益施設が配置されていく方針
	交通アクセス	○東京臨海新交通臨海線ゆりかもめ「有明テニスの森」駅下車徒歩約8分 または「新豊洲」駅下車徒歩約10分 ○東京臨海高速鉄道りんかい線「国際展示場」駅 または「東雲」駅下車徒歩約17分 ○東京メトロ有楽町線「豊洲」駅下車徒歩約18分 ○都営バス「かえつ有明中高前」※下車徒歩約1分
所有の状況		○土地は所有・管理とも東京都

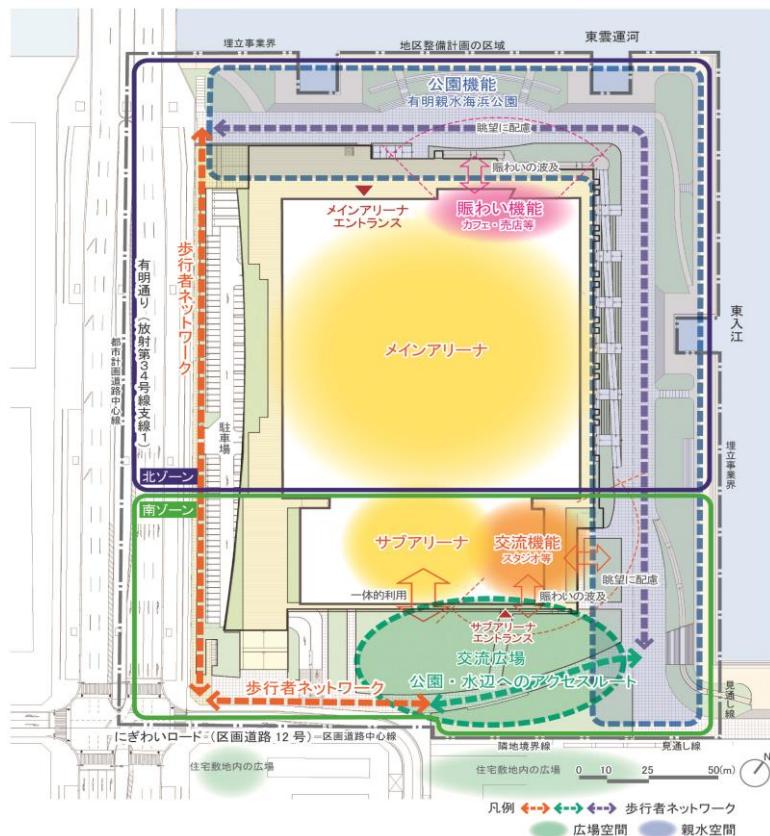
※2017年4月1日から「有明小中学校前」に変更予定

② 施設内容

建築物概要

敷地面積	約36,600㎡
延床面積	約47,300㎡
構造	鉄筋コンクリート造、一部SRC・S造
高さ・階数	約40m、地上5階建

【配置イメージ】



施設の概要

メインアリーナ	規模	約4,100㎡
	観客席等	約15,000席(仮設席含む) 車椅子使用者席(同伴者席併設)を約1%確保
	その他	コンクリート床 天井高、天井吊荷重等を確保 関係諸室、VIPラウンジ・ボックス席
サブアリーナ	規模	約1,400㎡
	その他	木床 メインアリーナとの連携やサブアリーナ単独利用も考慮した配置
その他	車椅子競技対応の更衣室 飲食店舗等(メインアリーナ側、交流広場側に各1区画) スタジオ等 交流広場	

※施設内容については、大会運営におけるバリアフリー化の指針である「アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえ、整備していきます。

※この内容は現段階のものであり、今後変更する場合があります。

③ レガシー

I 主なレガシー

東京の新たなスポーツ・文化の拠点

- 国際大会など質の高いスポーツ観戦機会の提供によるスポーツムーブメントの創出
- コンサート等のイベント開催による東京の新たな文化発信拠点

II 後利用の視点

○ アスリートファースト

- ・ アスリートの活躍の場となる、国内外の大規模大会の会場

目標：年間10大会開催

〔国際大会、プロリーグ、
全日本選手権等〕

- ・ スポーツ床を一定期間設置し、各種競技大会等で活用



○ 都民ファースト

- ・ コンサートや文化イベントなど、魅力的なエンターテインメントを提供
- ・ 身近なスポーツ実践の場として、都民がスポーツに親しめる場を提供

④ 大規模スポーツ大会の開催等

- 15,000席の規模を生かし、年間10大会の大規模大会の開催を目標とするとともに、次世代アスリートの育成や都民のスポーツの場として活用していきます

大会（例）	目標数
・ バレーボールワールドカップ ・ バレーボールワールドグランドチャンピオンズカップ ・ Vリーグ開幕戦・ファイナル ・ Bリーグ開幕戦・ファイナル ・ 日本車椅子バスケットボール選手権 等	10大会

◆ メインアリーナ

- ・ メインアリーナ（コンクリート床）に、一定期間、仮設の木製床を設置し、各種競技大会などのスポーツ利用を促進

◆ サブアリーナ

- ・ 都民のスポーツ実践の場としても活用し、スポーツを普及

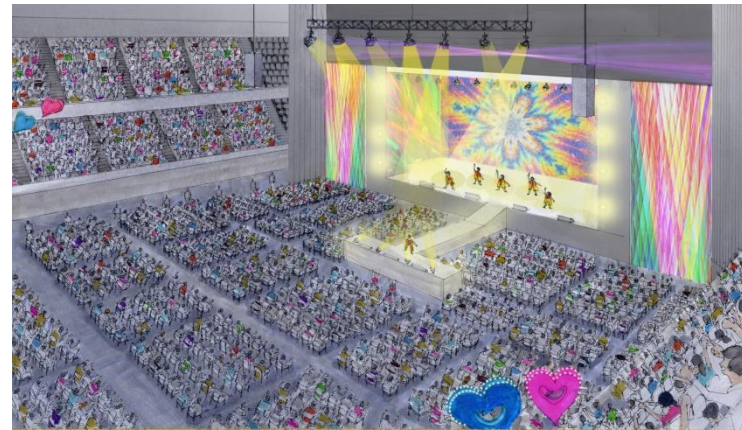


⑤ 新たな文化発信拠点

- 都内最大規模のアリーナ施設として、魅力的なエンターテインメントの場を提供します

コンサート等の
文化イベント

- ・ 国内外のアーティストによるコンサート
- ・ スポーツエンターテインメント
- ・ ファッションショー
- ・ その他各種イベント・ショー 等



- 様々な集会や式典の場としても活用していきます

集会・式典等

- ・ 株主総会
- ・ 入学式・卒業式 等

⑥ 来場者目標

○ スポーツ大会やコンサート開催などにより、年間１４０万人を目標とします

区分	内容	来場者目標数	
メインアリーナ	国際スポーツ大会	5万人	102万人
	国内スポーツ大会(全日本レベルの大会等)、リーグ戦 等	4万人	
	国内外アーティスト等によるコンサート	89万人	
	集会・式典等(入学式、株主総会等)	4万人	
サブアリーナ	都民の練習利用、小規模な大会 等	17万人	
トレーニングジム・スタジオ	都民の日常的な運動、スタジオレッスン 等	9万人	
レストラン・カフェ	飲食の提供	12万人	

※ 1万人未満を四捨五入しています。

⑦ 年間利用計画

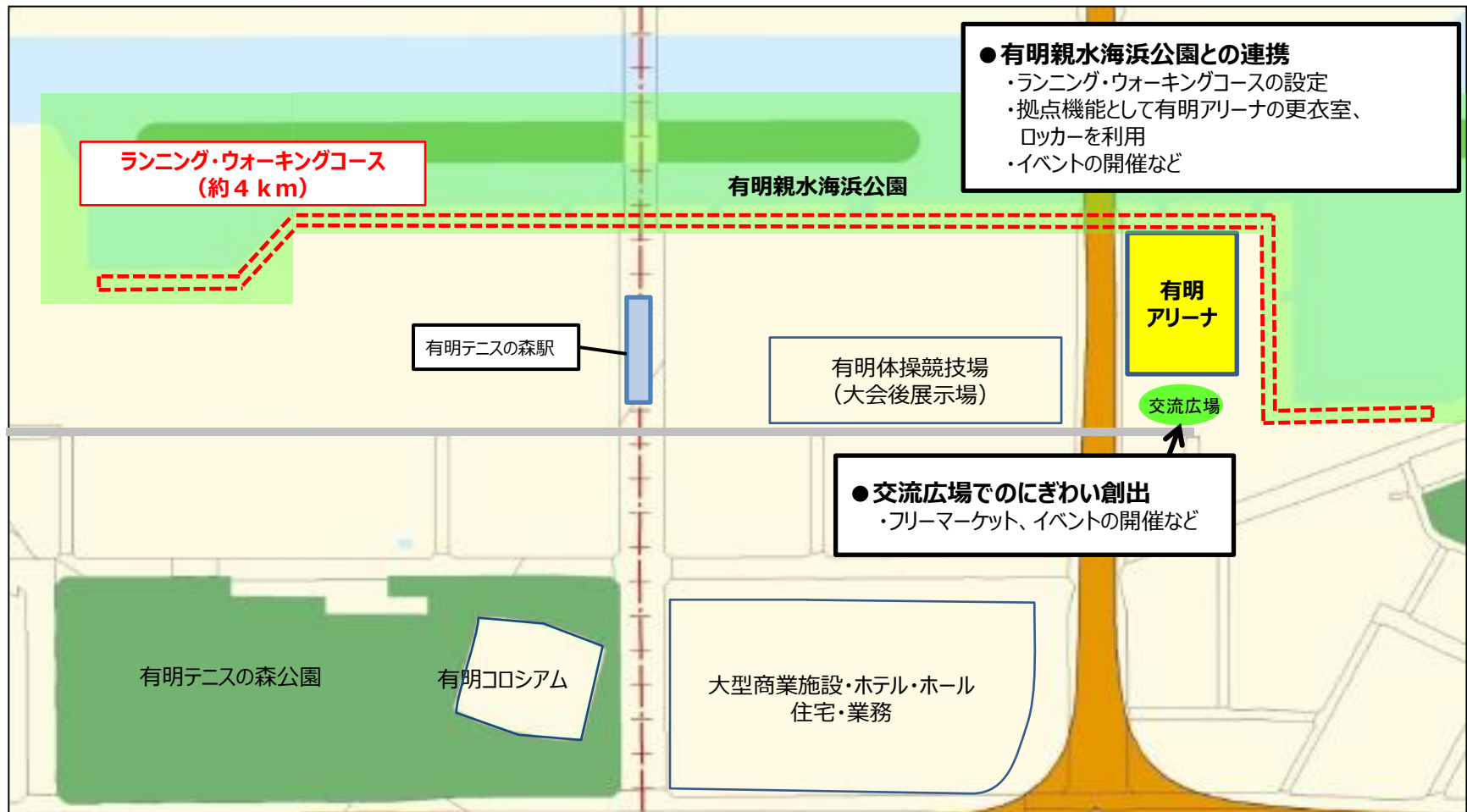
- 大規模スポーツ大会やコンサート等の開催のほか、都民が様々なスポーツ・文化活動に親しめる場を提供します

区分			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
メインアリーナ	スポーツ	国際大会												
		国内大会 (国内リーグ戦等)												
		興行スポーツ (アイススケート、格闘技等)												
	イベント	コンサート等												
		その他 (集会・式典等)												
			卒・入学式等	株主総会等				企業運動会等（適宜実施）						
サブアリーナ	スポーツ	都民利用	小～中規模のスポーツ大会、練習等の利用											
		スポーツ教室	各種スポーツ教室、その他スタジオと連携した教室等											
	イベント		スポーツ振興イベント等											
	メインアリーナと同時利用		スポーツ大会のウォーミングアップスペース、コンサート等のサブスペースとしての利用											
フィットネス・スタジオ			インストラクターによるフィットネス指導、年齢別レッスンプログラム、サブアリーナと連携した教室											
テナント	カフェ(メインアリーナ側)		コンサートやスポーツ大会来場者等の利用											
	レストラン(交流広場側)		近隣住民の日常的な利用、公園利用者の利用											
交流広場など施設外周			フリーマーケット等											
公園との連携			ランニング、ウォーキング、イベント等											

※ メインアリーナに一定期間、仮設の木製床を設置する予定です。

⑧ 周辺施設等との連携

- 隣接する有明親水海浜公園と連携して、都民の健康づくりやにぎわい創出の空間を提供します
- 有明アリーナの管理運営に関する民間事業者の提案も踏まえ、公園をはじめとした周辺施設との連携について検討を進めていきます

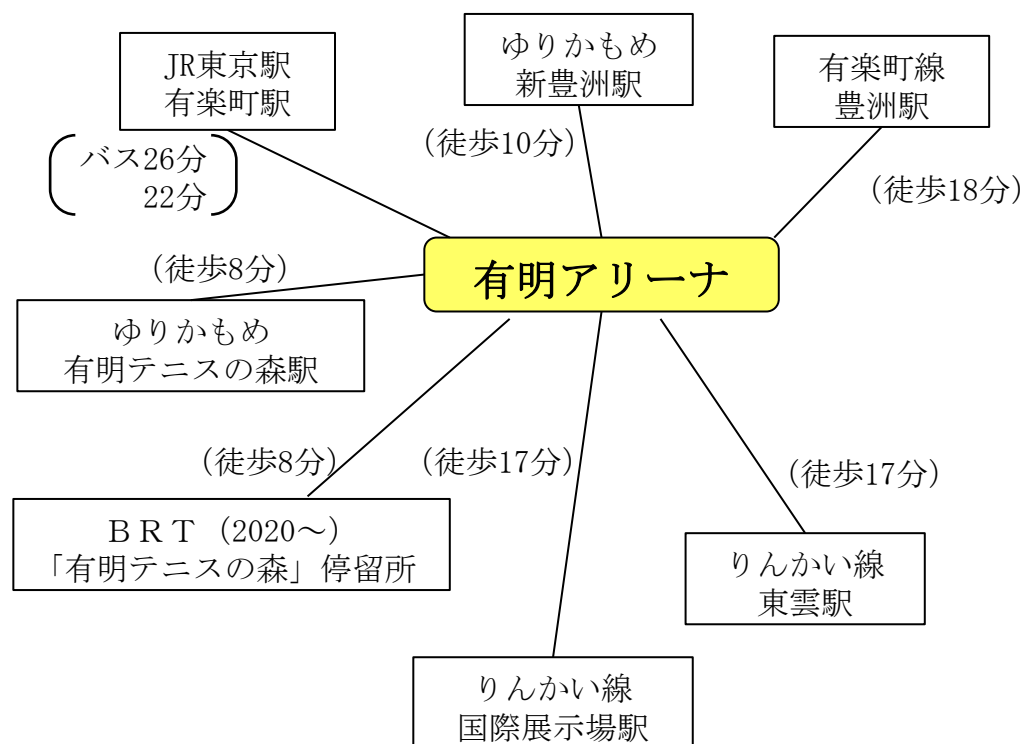


※ 有明親水海浜公園の名称は仮称です。

⑨ 交通アクセス

○ 都心に近接し、複数の鉄道路線やバス、車等の利用により、東京駅や羽田空港等の交通ターミナルからのアクセスが可能です

- ◆ 東京駅から約6km、羽田空港から約15kmの距離に位置
- ◆ 3路線・5駅の鉄道等の利用が可能であり、2020年以降、BRTも運行予定 ※1
- ◆ 大規模イベント時等にシャトルバスの運行を検討



【公共交通機関】

○ 鉄道等(3路線・5駅利用可能)

- ・ゆりかもめ「有明テニスの森」駅下車徒歩約8分
- ・ゆりかもめ「新豊洲」駅下車徒歩約10分
- ・りんかい線「国際展示場」駅下車徒歩約17分
- ・りんかい線「東雲」駅下車徒歩約17分
- ・有楽町線「豊洲」駅下車徒歩約18分

○ バス

- ・都営バス「かえつ有明中高前」※2(東京駅から約26分、有楽町駅から約22分)下車徒歩約1分

○ BRT(2020年～) ※1

- ・「有明テニスの森」停留所下車徒歩約8分

【車利用】

- ・東京駅から約6km(車で18分)
- ・羽田空港から約15km(車で20分)

※1 都市整備局・京成バス株式会社(平成28年4月)「都心と臨海副都心とを結ぶBRTに関する事業計画」より

※2 2017年4月1日から「有明小中学校前」に変更予定

⑩ 管理運営

(1) 管理運営の検討

民間の力を最大限活用した管理運営方式（コンセッション）について具体的な検討を進めていきます

(2) 収支見込（試算）

年間収支は約3.6億円のプラスとなる見込みです

収入			支出		
項目		金額(百万円)	項目		金額(百万円)
施設利用料 メインアリーナ	コンサート等	974	人件費		160
	集会等	50	光熱水費		259
	スポーツ	22	業務委託費	設備管理	65
サブアリーナ施設利用料		28		警備	67
ジム・スタジオ収入		47		清掃	84
その他収入		124		インストラクター	9
合計		1,245	その他支出		68
			一般管理費		71
			消費税等		106
			合計		889
			収支 356百万円		

【今後の運営事業者選定の中で提案を募るなど収益向上策を検討】

民間の創意工夫を最大限生かせるスキームを構築していきます

◆ 収益向上の取組の例

- 大会後にネーミングライツの導入、企業広告の獲得
- メインアリーナの稼働率向上
- 企業等への特別観覧スペースの年間貸出
- 周辺施設との連携による誘客

※現時点での試算であり、今後の精査等により、変動する場合があります。

※表示単位未満を四捨五入しており、合計等が一致しない場合があります。

7 (4) カヌー・スラローム会場

① 建設予定地の概要



東京2020大会における実施競技	オリンピック	カヌー(スラローム)
	パラリンピック	-

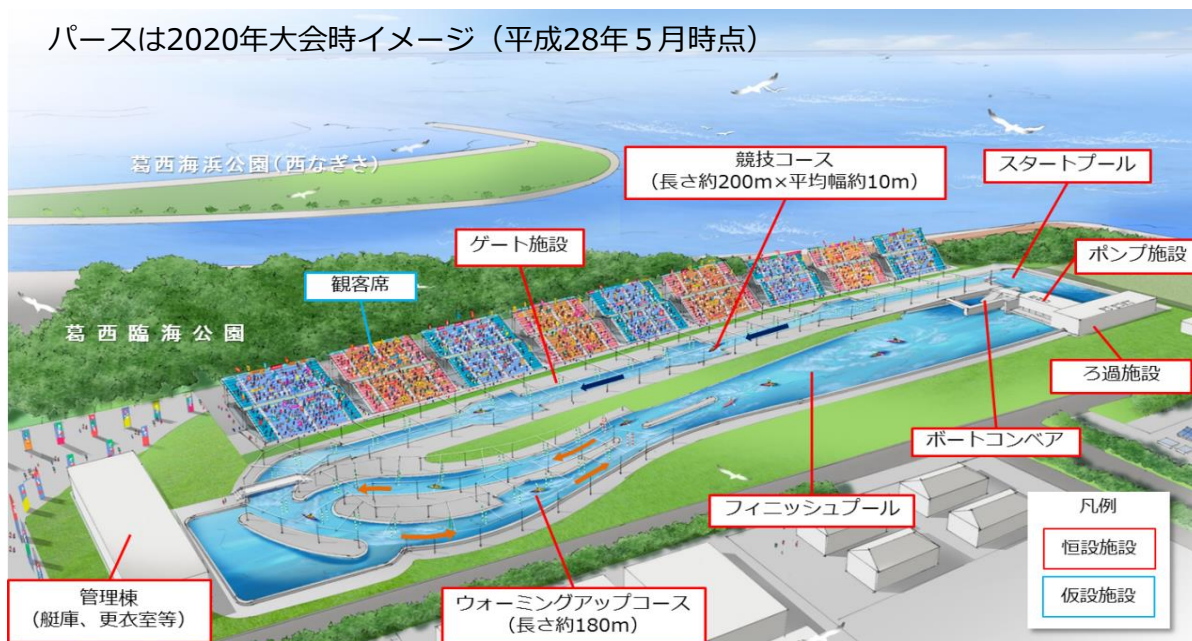
立地条件	所在地	東京都江戸川区臨海町6丁目1番 (葛西水再生センター内)
	周辺土地利用	○葛西臨海公園・葛西海浜公園に隣接 ○公園内には、観覧車、ホテル、水族園、レストラン、バーベキュー広場が立地
	交通アクセス	○JR京葉線「葛西臨海公園」駅(東京駅から約15分)下車徒歩約12分 ○都営バス・京成バス「葛西臨海公園駅」下車徒歩約12分 ○都営バス「臨海車庫」下車徒歩約7分 ○水上バス発着場下船徒歩約10分 ○車で首都高速道路「葛西インターチェンジ」からすぐ
所有の状況		○土地は所有・管理とも東京都

② 施設内容

施設の概要

競技コース	長さ約200m×平均幅約10m
ウォーミングアップコース	長さ約180m
付帯設備	フィニッシュプール、ポンプ施設等
管理棟	艇庫、事務室、更衣室等
その他	車椅子対応トイレ等の設置など

パースは2020年大会時イメージ（平成28年5月時点）



※施設内容については、大会運営におけるバリアフリー化の指針である「アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえ、整備していきます。

※この内容は現段階のものであり、今後変更する場合があります。

③ レガシー

I 主なレガシー

国内初の人エスラロームコースを活用した様々な水上スポーツ・レジャーを楽しむ施設

- 安定した競技環境のもとでアスリートを強化、育成
- 様々な水上スポーツや水上レジャーの機会を提供

II 後利用の視点

○アスリートファースト

- ・ カヌーをはじめとした水上競技の国際大会、国内大会を積極的に誘致・開催していきます

目標：年間7大会開催

（国際大会
日本選手権等）

○都民ファースト

- ・ 水上スポーツ体験やラフティング等の水上レジャーの機会を提供していくほか、水難救助訓練など、様々なニーズに応える多目的な利用を図っていきます



【カヌー・スラローム】



【ラフティング】

④ 大会開催を通じた競技力向上

- 国際大会を積極的に誘致することで、国内カヌー競技の国際的な競技力の向上に寄与する場としていきます
- 国内唯一の人工スラロームコースとして、カヌー・スラロームをはじめとした様々なカヌー競技の全日本レベルの大会を開催します



【コースのイメージ】

■ 国際大会 1 大会、国内大会 6 大会、計 7 大会開催

区分		国際大会	国内大会	開催目標
カヌー	スラローム	毎年1大会誘致を目標	日本選手権大会、ジャパンカップ	3大会
	ワイルドウォーター	—	ジャパンカップ	1大会
	フリースタイル	—	日本選手権大会	2大会
	ポロ	—	日本選手権大会	1大会

⑤ アスリートの強化、育成

- 人エスラロームコースにより安定した競技環境を提供し、カヌーをはじめとした水上競技の選手強化拠点として、強化練習会や日常的な練習の場を提供します



【カヌー・ポロ】

■ 強化練習会の実施 実施目標 計66回

競技		内容	主催者	実施時期	実施目標
カヌー	スラローム	ナショナルチーム強化練習会、ジュニア・U23日本代表強化練習会	日本カヌー連盟	3月～10月 (月4回程度)	29回
	ワイルドウォーター	ナショナルチーム強化練習会	日本カヌー連盟	通年 (2カ月に1回程度)	5回
	フリースタイル	日本カヌー連盟主催強化練習会	日本カヌー連盟	7月 (月1回)	1回
	ポロ	ナショナルチーム強化練習会	日本カヌー連盟	通年 (月3回程度)	30回
レースラフティング		代表、ユース育成強化練習会	日本レースラフティング協会	6月 (月1回)	1回

⑥ 都民に水上スポーツ体験、水上レジャーの機会を提供

- カヌー教室等の水上スポーツ体験やラフティング等の水上レジャーの機会の提供、親水エリアの充実など、様々なニーズに応える多目的な利用を図っていきます
- 年間延べ来園者数約300万人の葛西臨海公園、葛西海浜公園との一体的な活用や、地元区の水上スポーツ振興施策との連携により、より多くの都民利用を目指します
- 企業研修や学校教育との連携など、多様な活用を図っていきます

カヌー教室や講習会等 水上スポーツ体験の機会を提供	・カヌー・カヤック教室（通年） ・各競技団体主催の講習会等（通年） ・カヌーフェスタ（5月、11月） 10,000人
レクリエーション利用として 水上レジャーの機会を提供	・ラフティング（ツアー、体験）（5月～10月） 20,000人
	・水上遊具（通年） 36,000人

※千人未満を四捨五入しています。



⑦ 来場者目標

○ 競技での利用や水上スポーツ体験などにより、年間10万人を目標とします

利用目的	内容	来場者目標数
大会利用	国際大会 1大会、国内大会 6大会 合計7大会を誘致・開催	9,000人
強化練習会利用	各ナショナルチーム等強化練習会 計66回を開催	4,000人
練習利用	各種目の競技者の練習を実施	17,000人
水上スポーツの機会を提供	カヌーフェスタ、カヌー・カヤック教室、 ジュニア向け育成講習会 など	10,000人
水上レジャーの機会を提供	ラフティング(ツアー・体験)、水上遊具 など	57,000人
施設特性を生かした様々な 活動の推進	水難救助訓練(消防関係者・都民向け)	1,000人

※ 千人未満を四捨五入しています。

⑧ 年間利用計画

○ 競技利用のほか、春から秋にかけてラフティング等の水上レジャーや水上スポーツ体験、冬季は水難救助訓練を行うなど、多様な活用を図っていきます

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
競技 コース	競技利用 (スラローム、 ワイルドウォーター、 フリースタイル等)	大会、強化練習、個人練習等											
	ラフティング	ツアー、体験等										メンテナンス休業(※)	
	水難救助訓練												
ウォーミン グアップ コース フィニッ シュプー ル	競技利用 (ボロ等)	大会、強化練習、個人練習等											
	水上スポーツ 体験		カヌー体験教室等										
	水上レジャー		水上遊具等										

…競技利用…一般利用

※水入替作業、コース清掃等による休業。

⑨ 周辺施設等との連携

○ 隣接する葛西臨海公園・葛西海浜公園と連携し、にぎわいを創出していきます

- カヌー・スラローム会場と葛西臨海公園を結ぶ歩行者動線確保
- 公園内の総合案内、水族園・観覧車・ホテル等のレジャー・レクリエーション施設との連携、駐車場の相互利用など、施設の一体的な活用



⑩ 交通アクセス

○ 電車・バス・水上バス・車など、様々なアクセスが可能です

- JR京葉線「葛西臨海公園」駅（東京駅から約15分）下車徒歩約12分
- 都営バス・京成バス「葛西臨海公園駅」下車徒歩約12分、都営バス「臨海車庫」下車徒歩約7分
- 水上バス（浅草・お台場方面）発着場下船徒歩約10分
- 車で首都高速道路「葛西インターチェンジ」からすぐ



⑪ 管理運営

(1) 管理運営の検討

指定管理者制度等による管理運営について具体的な検討を進めていきます

(2) 収支見込（試算）

年間収支は約1.9億円のマイナスとなる見込みです

収入			支出	
項目		金額(百万円)	項目	金額(百万円)
施設利用料	大会利用	8	人件費	59
	団体利用	26	光熱水費	145
	個人練習	24	業務委託費	81
	ラフティングツアー	54	その他 (消耗品・役務費等)	4
	ラフティング体験	10	一般管理費	29
	ポロエリア利用	4	消費税	32
	カヌー・カヤック 教室	5	合計	349
	艇庫利用	7	収支 ▲186百万円	
	水上遊具	18		
その他収入 (駐車場・自動販売機)		7		
合計		164		

【今後の運営事業者選定の中で提案を募るなど収益向上策を検討】

①大会後にネーミングライツの導入、企業広告の獲得

②葛西臨海公園・葛西海浜公園との連携
相互利用の促進(共通チケットの導入等)

③企業研修での活用
水上スポーツを取り入れた企業研修との連携(チームビルディング研修等)

④学校教育との連携
修学旅行や社会科見学などで施設見学や水上スポーツ体験を実施

※本用地は、下水道事業会計の土地であり、土地の使用料が別途必要となります。

※下水道施設の更新計画を踏まえ、施設のあり方を検討(20年後)します。

※現時点での試算であり、今後の精査等により、変動する場合があります。

※表示単位未満を四捨五入しており、合計等が一致しない場合があります。

7 (5) 大井ホッケー競技場

① 建設予定地の概要



東京2020大会における実施競技	オリンピック	ホッケー
	パラリンピック	—

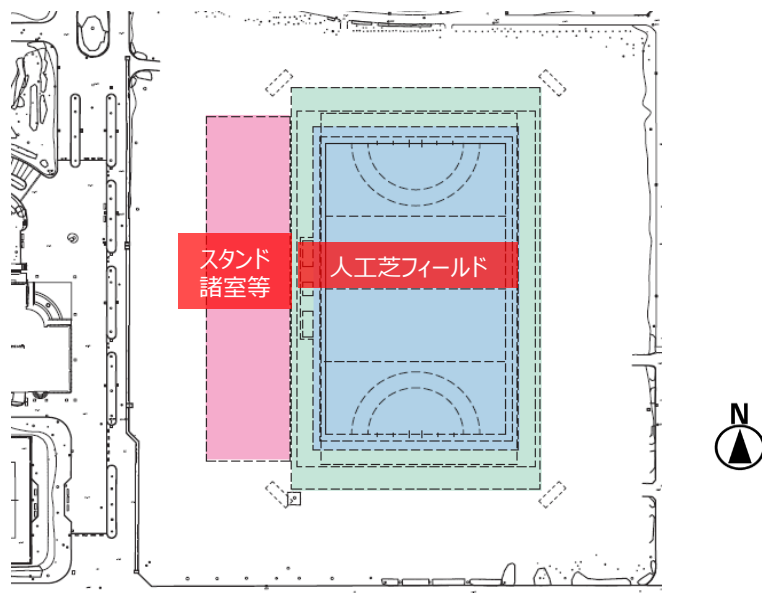
立地条件	所在地	東京都品川区八潮三丁目、大田区東海一丁目 (大井ふ頭中央海浜公園内)
	周辺土地利用	○当該公園は、陸上競技場、第一球技場(クレイコート)、第二球技場(ロングパイル人工芝)、野球場やテニスコートのある「スポーツの森」と、海辺と自然のある「なぎさの森」から構成 ○現在の第一球技場、第二球技場は主にサッカー、ラクロスやアメリカンフットボールで利用 ○公園の東側には物流ターミナルや倉庫が、京浜運河をはさんで西側に大井競馬場、北側には団地や保育園、幼稚園が立地
	交通アクセス	○東京モノレール「大井競馬場前」駅下車徒歩約8分 ○京急バス「中央公園」下車徒歩約5分 ○都営バス「八潮南」下車徒歩約6分 ○京急バス「大田スタジアム」下車徒歩約10分
所有の状況		○土地は所有・管理とも東京都

② 施設内容

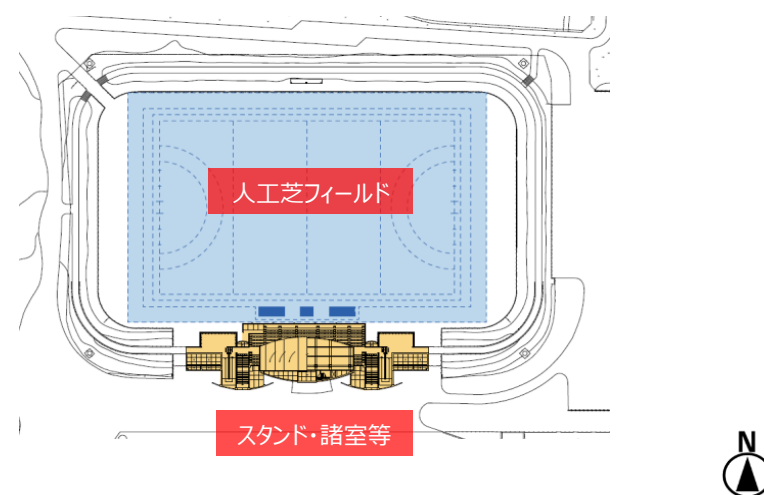
施設の概要

メインピッチ (新築)	フィールド・主な設備	観覧席、ショートパイル人工芝グラウンド、散水設備、スコアボード、夜間照明など
	座席数	約2,600席 車椅子使用者席(同伴者席併設)を観客席の約1%確保
	諸室等	更衣室、多目的室、医務室、会議室 など
	その他	誘導ブロック、音声誘導装置、点字サイン等の配置、ピクトグラムによる案内表示など
サブピッチ (既存の第二球技場を改修)	フィールド・主な設備	観覧席、ショートパイル人工芝グラウンド、スコアボード、放送設備、夜間照明など
	座席数	約500席 車椅子使用者席(同伴者席併設)を観客席の約1%確保
	諸室等	更衣室、ミーティング室、事務室、大会議室
	その他	エレベーターの増設、トイレの改修、手すりの更新 など

【メインピッチ配置図】



【サブピッチ配置図】



※施設内容については、大会運営におけるバリアフリー化の指針である「アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえ、整備していきます。

※この内容は現段階のものであり、今後変更する場合があります。

③ レガシー

I 主なレガシー

ホッケーをはじめ、様々なスポーツで利用できる多目的球技場

- 数少ない公共のホッケー競技場として、ホッケーの競技力強化と普及・振興の場
- 都民が幅広く様々なスポーツを行うことができる場、そして、公園内の他施設と連携し、総合的なスポーツ・レクリエーションの拠点を形成

II 後利用の視点

○ アスリートファースト

- ・ 国際大会・国内大会の開催を通じて、ホッケーの競技力強化、普及・振興を図ります

目標：年間 2 3 大会開催 〔 国際・国内大会
ジュニア大会等 〕

○ 都民ファースト

- ・ 多くの都民が、サッカー、ラグロス、アメリカンフットボール等様々なスポーツの大会や練習で利用できる施設として活用していきます



④ ホッケーの競技力強化、普及・振興の拠点

- ホッケーの国際大会や主要な国内大会など、年間23大会の開催を目標とし、競技力向上を図ります

区分	内容	大会数
国際・国内大会	- 国際大会の誘致 - 高円宮杯ホッケー日本リーグ、全日本大学ホッケー王座決定戦、全国高等学校ホッケー選手権大会、日本社会人大会 など	18大会
地区大会 都大会	関東学生春季/秋季ホッケーリーグ戦、関東社会人リーグ戦、都高校総体 など	5大会
強化合宿等	強化合宿(シニア)、強化合同合宿(U22、U18、U15) など	15回

- オリンピックやその後の国際・国内大会を契機に、ホッケーの更なる普及・振興と次世代のアスリート育成を図ります

ホッケーの更なる普及・振興	- 近隣の高校や大学、企業チームなどの練習の場 - 審判員等、競技関係者の育成
次世代のアスリート育成	- ジュニアホッケー教室の開催 - 全国スポーツ少年団ホッケー交流大会 など



⑤ 都民の多様なスポーツ実践の場

○ 都民が多様なスポーツを楽しむことができる場として活用していきます

利用が想定される主なスポーツ	- サッカー - アメリカンフットボール - ラクロス
----------------	---



サッカー



ラクロス



アメリカンフットボール

○ ピッチや大会関係諸室を活用し、都民に健康増進の場を提供していきます

ピッチの活用	- グラウンドゴルフ - 企業や地域の運動会 など
諸室の活用	- 親子体操教室 - キッズダンス - ヨガ など

※ 2020年大会後、各種競技による利用実態を踏まえ、よりふさわしいフィールドの仕様について検討していきます。

⑥ 来場者目標

○ 大会利用、練習利用等により年間20万人を目標とします

区分		主な内容	来場者目標数
大会利用 (観戦者等含む)	ホッケー	国際大会、主要な国内大会や都大会等(23大会)	75,000人
	サッカー、ラグロス、 アメリカンフットボール など	各種競技の関東大会、都大会や、学生リーグ等	53,000人
練習利用	ホッケー	都内の企業や大学、高校等のホッケーの練習や強化合宿の場	10,000人
	サッカー、ラグロス、 アメリカンフットボール など	近隣の中学、高校等の部活動、大学・企業チーム等の練習	60,000人
その他	自主事業、運動会等	その他スポーツ(グラウンドゴルフなど) 企業や学校の運動会など	3,000人

※千人未満を四捨五入しています。

⑦ 年間利用計画

○メインピッチは主にホッケーの大会や練習・合宿を中心とし、サブピッチはサッカーやラクロス、アメリカンフットボールの大会や練習の場としても活用していきます

場所	主な利用種目	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
メイン ピッチ	ホッケー ラクロス サッカー など	大会利用	ホッケーやラクロス等の競技大会等の会場として活用											
		練習利用	ホッケーやラクロス、サッカー等の練習の場として活用											
			ホッケーの強化合宿など											
		その他利用	グラウンドゴルフ等、ニュースポーツの利用											
サブ ピッチ	サッカー ラクロス アメリカンフットボール ホッケー 運動会 など	大会利用	サッカーやラクロス、アメリカンフットボール等の競技大会等の会場として活用											
		練習利用	サッカーやアメリカンフットボール等の練習の場として活用											
		その他利用	学校や企業の運動会などの会場として活用											
多目的に利用できる諸室等（メインピッチ）			健康体操、ヨガ教室 など											
公園と連携した事業			屋外フィットネス、ランニング、ウォーキング など											

…競技利用
 …一般利用

※ 大会利用は主に土日进行しています。

⑧ 周辺施設等との連携

- 大井ふ頭中央海浜公園全体として、総合的なスポーツ・レクリエーションの拠点、身近な自然とのふれ合いの場としていきます
 - 公園の顔となるエントランスからメインピッチ前広場にかけて、にぎわいを創出
 - メインピッチや管理棟を中心として、公園全体に広がる様々なアクティビティを提供(屋外フィットネス、バーベキューなど)
 - 公園全体のバリアフリー機能、防災機能の向上



⑨ 交通アクセス

○ 電車・バス・車など、様々なアクセスが可能です

○ 東京モノレール「大井競馬場前」駅（浜松町から約7分、羽田空港から約17分）下車徒歩約8分

○ 京急バス「中央公園」（大森駅から約11分、大森海岸駅から約9分）下車徒歩約5分

○ 都営バス「八潮南」（品川駅から約19分、大井町駅から約16分）下車徒歩約6分

○ 京急バス「大田スタジアム」（大森駅から約10分）下車徒歩約10分



⑩ 管理運営

(1) 管理運営の検討

指定管理者制度等による管理運営について具体的な検討を進めていきます

(2) 収支見込（試算）

年間収支は約9千万円のマイナスとなる見込みです

収入			
項目			金額(百万円)
施設使用料	メインピッチ	ピッチ使用料	23
		付帯設備使用料	16
	サブピッチ	ピッチ使用料	13
		付帯設備使用料	2
合計			54

支出	
項目	金額(百万円)
人件費	5
光熱水費	58
業務委託費	50
その他 (消耗品・役務費等)	6
一般管理費	12
消費税	14
合計	145

収支 ▲92百万円

【今後の運営事業者選定の中で提案を募るなど収益向上策を検討】

①大会後のネーミングライツの導入

②企業広告の獲得

③公園内他施設との連携による誘客

※試算は公園との一体管理を前提としています。

※現時点での試算であり、今後の精査等により、変動する場合があります。

※表示単位未満を四捨五入しており、合計等が一致しない場合があります。

7 (6) アーチェリー会場（夢の島公園）

① 建設予定地の概要

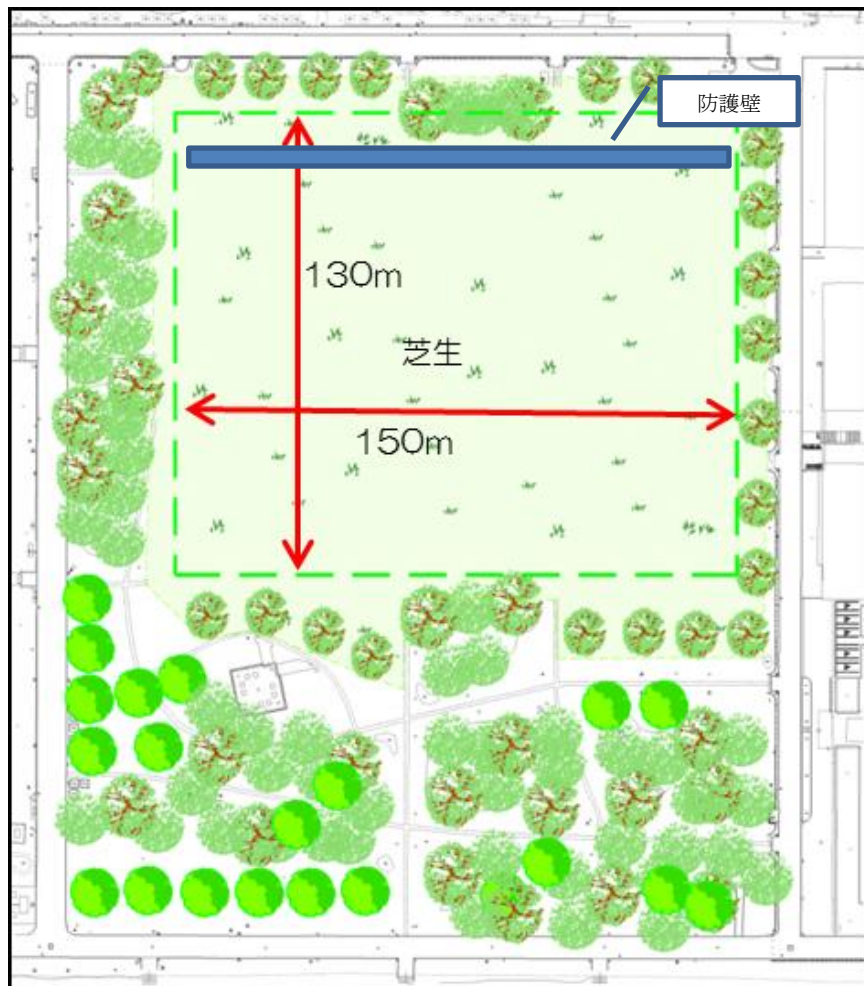


東京2020大会における実施競技	オリンピック	アーチェリー
	パラリンピック	アーチェリー

立地条件	所在地	東京都江東区夢の島二丁目(都立夢の島公園内)
	周辺土地利用	○当該公園は、夢の島熱帯植物館、BumB東京スポーツ文化館、陸上競技場、バーベキュー広場などから構成
	交通アクセス	○JR京葉線・東京メトロ有楽町線・東京臨海高速鉄道りんかい線「新木場」駅下車徒歩約7分 ○都営バス「夢の島」下車徒歩約5分
所有の状況		○土地は所有・管理とも東京都

出典: 国土地理院・空中写真を加工して作成

② 施設内容



施設の概要

形状	芝生広場(平面) 縦幅 約130m、横幅 約150m程度
設置予定の工作物等	防護壁、倉庫、日よけ屋根、 ベンチ、水飲み場 など
その他	フィールドの側面や後方には、 植栽や簡易な手すりの設置を検討 (大会時の侵入防止柵と兼用)

※施設内容については、大会運営におけるバリアフリー化の指針である「アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえ、整備していきます。

※この内容は現段階のものであり、今後変更する場合があります。

③ レガシー

I 主なレガシー

アーチェリーを中心に、都民・公園利用者に対し多様な活用の機会を提供

- アーチェリーの主要な競技大会の会場を提供
- 芝生広場として多様な活用を図り、夢の島公園と一体となり都民に憩いの場を提供

II 後利用の視点

○アスリートファースト

- ・ 主要国内大会の開催を通じて、アーチェリーの競技力強化、普及・振興を図っていきます

目標：年間20大会開催

（国内大会
地区大会 等）

○都民ファースト

- ・ 都民・地域住民の憩いの場として、子どもから高齢者まで自由に利用できる芝生広場を提供していきます



④ アーチェリーの競技力向上

- 年間約20大会の会場として活用するとともに、国際大会の開催を目指すなど、アーチェリーの競技力向上を図ります
- 周辺施設と連携し、競技の普及・振興、次世代のアスリート育成を図ります

➤ 国内・地区競技大会（例）

【全国大会】

全日本ターゲット選手権大会、全日本学生東日本大会、全国高等学校アーチェリー選抜大会、全日本小・中学生選手権大会、全日本障害者アーチェリー大会 など

【地区大会】

関東大会予選会、東京都アーチェリー選手権大会、東京都70m・50mラウンド大会など

➤ アスリート育成

- ・ アーチェリー体験教室の開催 など



写真提供: 全日本アーチェリー連盟

⑤ 都民の憩いの場

○ 大会やイベント等での利用に加え、公園利用者がレクリエーション活動等を楽しむ憩いの場として活用していきます

- 周辺の保育園・幼稚園、小学校等の遠足
- 芝生広場を利用した各種イベント・レクリエーション
- 各種集会 など

【多目的利用】



【グルメイベント】



【ヨガイベント】



⑥ 来場者目標

○ 競技利用、多目的利用により、年間3.3万人を目標とします

利用目的		内容	来場者目標数
アーチェリー競技利用		・年間20の主要大会 全30日程度 ・アーチェリー体験教室の開催 など	3,000人
多目的 利用	主催事業	・ヨガイベントの開催 など	4,000人
	占有利用	・大規模イベント (グルメイベント、音楽イベント など) ・地域の中規模なイベント (マーケット、お祭り など)	26,000人

※千人未満を四捨五入しています。

※一般開放による来場者数は含んでいません。

⑦ 年間利用計画

○ アーチェリーの競技大会を春から秋にかけて開催し、その他にもイベント等で利用していきます

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アーチェリー場 としての利用	競技大会利用												
占有利用	定期的プログラム ヨガ教室 など												
	大規模イベント グルメ・音楽イベント												
	地域のイベント お祭り、マーケット など												
一般開放	遠足、ピクニック等												

	・・・競技利用
	・・・一般利用

⑧ 週間利用計画

○ 春から秋の土日祝はアーチェリー大会を中心に活用し、その他のイベント等の占有利用以外の日は芝生広場として一般開放します

区分		月	火	水	木	金	土	日
アーチェリー場 としての利用	競技大会利用							
占有利用	定期的プログラム ヨガ教室 など							
	大規模イベント グルメ・音楽イベント							
	地域のイベント お祭り、マーケットなど							
一般開放	遠足、ピクニックなど							

	・・・競技利用
	・・・一般利用

○ 夢の島公園内の他施設と連携し、都民や周辺住民の水辺・自然の中での憩いの場としていきます

例) ・アーチェリー教室
・ヨガ教室
・公園内各施設を活用した共同グルメイベント
・各施設をめぐるランニングイベント など



⑩ 交通アクセス

○ 電車・バス・車など、様々なアクセスが可能です

■ JR京葉線・東京メトロ有楽町線・東京臨海高速鉄道りんかい線「新木場」駅（東京駅から約8分、新宿駅から約30分）下車徒歩約7分

■ 都営バス「夢の島」下車徒歩約5分



⑪ 管理運営

(1) 管理運営の検討

指定管理者制度等による管理運営について具体的な検討を進めていきます

(2) 収支見込（試算）

年間収支は約1,200万円のマイナスとなる見込みです

〔 今後の運営事業者選定の中で提案を募るなど収益向上策を検討 〕

収入		
項目		金額(百万円)
施設利用料	大会利用	0.9
	団体貸切利用	0.9
その他収入		1.5
合計		3.3

支出		
項目		金額(百万円)
人件費		6.4
管理運営費	維持管理費	0.3
	植栽委託費	5.1
	主催事業費	0.5
一般管理費		1.2
消費税		1.4
合計		14.9

収支 ▲11.6百万円

①大会後にネーミングライツの導入、
企業広告の獲得

②施設の有効利用による収入増
・占有利用を伴う大規模イベントの開催など

③公園との同一管理者による効率的な管理
・維持管理費の削減（植栽管理・人件費など）
・相互利用の促進（共同イベントの開催など）

※現時点での試算であり、今後の精査等により、変動する場合があります。

※表示単位未満を四捨五入しており、合計等が一致しない場合があります。

8 今後のスケジュール

○ 大会前の早期に運営事業者を決定し、大会後の施設運営に万全を期します

